

# さぬき・東かがわ支部国語部会

さぬき・志度中 鏡原 貴子

## 1 研究主題

生きて働く力を育む国語教室  
～言葉による見方・考え方を働かせ、深まる学び～

## 2 研究活動の概要

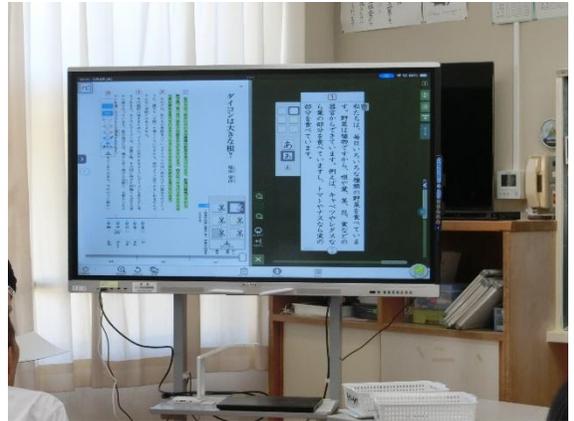
- (1) 5月2日(金) さぬき南中(支部総会)
  - ① 研究テーマ決定
  - ② 研究組織編制
  - ③ 研究計画作成
- (2) 6月4日(水) 志度中
  - ① 教材共同研究
  - ② グループ協議
  - ③ 指導・助言
- (3) 9月12日(金) 長尾中
  - ① 研究授業
  - ② 授業討議
  - ③ 指導・助言

## 3 研究内容

- (1) 教材共同研究
  - ① 題材「ダイコンは大きな根？」(1年)  
『ワークシートを作ろう』  
題材「ヒューマノイド」(2年)  
『授業の流れを作ろう』
  - ② グループ分け  
ベテラン教員と若手教員、別の学校の教員がバランスよく分かれるように工夫した。
  - ③ グループ協議

### 「ダイコンは大きな根？」より

- ・デジタル教科書を用いて、段落を分けたり、入れ替えたりする活動を入れると、生徒の興味を喚起しやすい。
- ・小学校で既習の説明的文章の読み方を授業の始めに確認しておくことで授業に入りやすい。
- ・段落ごとに内容が分かるようなタイトルを付けるワークシートを準備する。



- ・導入時に他の野菜を例に出して、どの器官を食べているのか、それぞれに考えさせる。
- ### 「ヒューマノイド」より
- ・主題をとらえることに重点をおく指導は有効であるか。
  - ・「ヒューマノイド」の和訳や「タクジ」はなぜカタカナなのかを考えさせる。
  - ・この文章のキーワードは「恥」であることから、それに関係する部分を徹底的に洗い出す。
  - ・伏線と結末を結び付けることによって、伏線の効果を考えさせる。



## (2) 研究授業

### ① 題材 「ヒューマノイド」(2年)

### ② 授業者 有馬 里南 教諭(長尾中)

今回は、当該学級の生徒がインフルエンザによる学級閉鎖で不在となったため、会員である教師集団に向けての模擬授業を行った。

### ③ 学習指導過程

ア 絵本を読み聞かせて、教材の「伏線」について知る。

イ 教材の中から伏線を探す。

ウ 班で共有し、発表する。

### ④ 授業討議

ア 授業説明

イ グループ協議

- ・伏線の話をする際に、小学校で既習の教材を例に出すと分かりやすいのでは。
- ・「伏線」と「キーワード」は混同しないようにしなければならない。
- ・結末部につながる伏線を取り出していくことが重要である。
- ・伏線が分かると文章としてはすっきりするイメージがあるが、この教材は最後に余韻が残る結末になっているため、終わり方を全員で考える活動を取り入れてもよいのではないか。
- ・伊坂幸太郎の別の作品を紹介することによって、生徒の読書習慣に結び付けることができる。



### ⑤ 指導・助言

一田 幸子 主任指導主事(県教育センター)

- ・「伏線」はどのような意味をもつのかを考えさせるとよい。小学校では「しかけ」という表現をしている。伏線がどんどん回収されるおもしろさを味わわせたい。
- ・キーワードである「恥ずかしさ」について

は生徒から出てくるはず。生徒自身に見付けさせたい。

- ・生徒が試行錯誤する過程を楽しませてほしい。「何を指導するのか」「どこをどう評価するのか」を単元の始めに生徒と確認をすることが大切である。「難しいけど、おもしろい」という授業ができるように、教材研究を続けてほしい。



## 4 反省と課題

昨年度に引き続き、共同教材研究を今回は説明的文章と新教材で行った。2学期に授業を予定している教材の研究を、教員同士で議論しながら行うことで、個々の理解が深まり、実際に授業を行う際の助けとなった。まだ本支部では3つの教材しか共同研究でできていないため、今後も教材を変えながら、ともに研究を進めていきたいと考えている。

また、今年度行われた四国国語教育研究大会(徳島大会)に支部の国語科教員がまとまって参加することができた。ゲストを招いてインタビューをする「話すこと・聞くこと」の授業や比較読みを用いた「読むこと」の授業、読んだ人が行ってみたいと思えるようなポスターコピーを作る「書くこと」の授業など、大変勉強になる大会であった。若手教員が増えている現状で、革新的な研究授業を参観できたこと、質の高い言語能力を保障していくという阿部昇先生の講演を拝聴することができたことは、大変意義深い経験となった。このように、今後も自己研鑽に精進していきたいと考えている。